

診療所になったら夜間、休日は無医地区に 松代病院の“無床診療所化”方針に不安の声、次々



令和6年度 松代病院 入院患者の住所地

住所	実入院患者数	割合
旧松代町	217	52.0%
旧松之山町	140	33.6%
旧十日町市	25	6.0%
上越市	12	2.9%
旧中里村	7	1.7%
柏崎市	4	1.0%
旧川西町	2	0.5%
小千谷市	2	0.5%
湯沢町	1	0.2%
その他	7	1.7%
合計	417	100.0%



最後のヒナが吉川区の巣から巣立って18日目。コウノトリの親子は柿崎区下黒川の田んぼで元気に動いていました。サザヤカラスも一緒に、仲良くしていました。(1日撮影)

来年4月から新潟県立松代病院での入院をやめて、その機能を十日町病院に統合する。本年5月に県病院局がこの方針を明らかにしたとき、「またまた過疎地の住民いじめがはじまった」と思いました。松代、松之山、そして大島など関係住民にとっては、命にかかわる重要問題です。

先月29日、県病院局は松之山と松代の2会場で「松代病院の入院機能の十日町病院への統合(無床診療所化)」に関する説明会を行いました。私も参加してきました。

説明会では金井病院局長が挨拶、田中経営企画課長が説明を行いました。このなかで病院局は、「松代病院は入院患者が年々減少して、入院患者は85歳以上の高齢者が多い。いろんな病気を抱えることが多く、小規模病院では対応は難しい」「患者減、診療報酬などの問題があって病院経営は赤字であり、県では、各病院の機能・規模の適正化と大規模病院を中心とした収益性向上策を追求していく」「今後、9月にもう一度住民説明会をやって、魚沼地域医療構想調整会議で意見を聴き、12月県議会定例会で病院事業の設置等に関する条例「改正」(案)を提案していく

予定」などと説明しました。

こうした説明を受け参加者からは、「松之山の奥まったところに住んでいるが、冬は1時間かかるかも知れない。松代だから何とかなつた。その点が一番心配だ」「病院改革の案が示されて1年も経たないうちに新たな提案が示された。どうなっているのか」「松代病院は介護施設と連携している。これまで通りできるのか」「合併してから松代病院の(廃止など重要な)問題が出されたのはこれで3回目だ。過疎地に住んでいるが、命の重みは他地域と変わらない。私はあきらめない」「病床削減よりも国に診療報酬引き上げなどの働きかけをもっとすべきだ」などの声が上がりました。

病院局は、「松代病院の診療所化の具体的な内容は公立の診療所などを参考にして検討中だ。検討結果は9月の説明会で示す」など



【クガイソウ】(再掲)。オオバコ科の多年草。漢字で「九蓋草」または「九階草」と書きます。葉は茎に輪生し、層となることからこの名前が付いたといいます。花期は7月～8月。花は紫色、形はオカトラノオに似ています。花言葉は「明るい家族」「希望」。毎年、浦川原区有島で撮影していますが、今回は、吉川区竹直にて撮影しました。

大島区でも説明会開催へ

説明会では私も、「この病院には歴史と伝統があって、大島や柏崎からの患者も多い。上越市や柏崎市にきちんと説明していないし、説明会の計画もない。どういうことか」と質問しました。病院局の担当者は、「柏崎、上越両市とは相談している(本当でしょうか?)。柏崎、大島での説明会は(指摘されたので)開催する」などと答えました。説明会開催はやって当たり前です。

としていますが、昼間だけの診療所ということになれば、夜間、休日は「無医地区」になります。往診も介護施設との連携も後退は必至です。こんなことでは困ります。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2210 2025.7.6
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp
URL <https://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
←こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第八五七回

転居前日に

まさか上越市から転居される前日だったとは……。二七日の夜でした、古澤かをる先生のところへ電話したのは。じつを言う、二週間ほど前、古澤先生から「六月末で上越市を離れます」というお手紙をいただいていた。

その日の夕方、古澤先生の教え子であるMさんから、「古澤先生、今度、引っ越しされるんですね」と声をかけていただきました。「そうなんです。さみしくなりますね」と言いながら、まだ返事も書いていないことを思い出しました。

今晚にでも電話しなきゃ。そう思った私は夕食後、久しぶりに古澤先生のところへ電話を入れました。電話の向こうからは、張りのある声が聞こえてきました。九月には満九〇歳になられるというのに、実際の年齢よりもずっと若々しい感じでした。

私はまず、お便りの返事をまだ出していないことを詫び、「せめて電話だけでもと思って電話させてもらいました」と言いました。先生からは「お忙しいのにすいません」と言われ、その後にくわいわたのです。「明日、転居するので、きょう、雁木通りのプラザにある市役所の出張所に転居の手続きをしに行ってきました」と。何ということでしょう、古澤先生こそ忙しいお体だったのです。こちらこそ恐縮してしまいました。

転居の手続きに行ってきましたという話を聞いた時、娘さんが来られ、一緒に役所に行かれたものと思いました。でも、そうではありませんでした。古澤先生は、杖を頼りに、雁木通りプラザまで一人で行き、自分で転居の書類を書いてこられたというのです。これにはびっくりでした。市役所の窓口の方からも、「ご高齢なのに、よく一人で手続きに来られましね」とほめられたそうです。

その後、古澤先生は懐かしい思い出を

次々と語ってくださいました。

私と古澤先生との出会いは、教員になられたばかりの頃の思い出が綴られた古澤先生の文章がきっかけです。旧吉川町の川谷校に勤務された当時のことが丁寧に書かれていて、私はその文章を読んだ時の感動をこの「春よ来い」シリーズに書いていました。まだ十年は経っていないと思います。

電話ではまず、私の恩師の一人である小林良先生（故人）宅で初めてお会いした時の印象などを語ってください、続いて、村屋の村松家を訪問した時のことを語ってくださいました。古澤先生が六十数年ぶりに村松家を訪ねられ、「六十数年前に困って泊めてもらった」お礼をされた場面はいまでも鮮明によみがえってきます。

この日、古澤先生とは話が弾み、電話は一八分にも及びました。電話では初めて知ったこと、あるいは再度確認できたことがいくつかありました。その一つは著名な歌人、山田あきとの関係です。山田あきは浦川原の菱田出身ですが、古澤先生のお連れ合いは、山田あきのご姉妹の息子さんでした。それで、菱田の池のそばにある歌碑をつくった当時のいきさつも語ってくださいました。私からは、同じく菱田の村松家とつながっていたいた塚田トミエさん（旧吉川町時代の初の女性町議）が二十数年前、わが家に来られ、泊っていかれたことなどを話しました。

古澤先生は、「私は浦川原で二十七年間住みました。吉川の学校は川谷で三年、吉川小で八年、合計で十一年お世話になりました」と感謝の気持ちを言われました。それに続けて、こう言ってくださいました。「この歳になってまた転居することになるとは思ってもみませんでした。私は糸魚川の生まれですが、この上越そのものが私の故郷です」と。古澤先生、ありがとうございます。

瀬谷さんのトークと歌にうっとり

「夢をかなえる会」主催の瀬谷佑介さんのトークと歌を聴いてきました。瀬谷さんは上越市の山間部で暮らし、コメと野菜と歌を自分でつくっている人です。

実際の暮らし、仕事の中でつくられた歌はスーッと心の中に入ってきます。1本の大根を初めて収穫した時、1つの夢がかなえられた。この人はこうした小さな夢を1つひとつ積み重ねて、大きな幸せをつかんだ人だと思いました。

アンコールで歌った曲は、「種蒔き」。「ズッキーニを買ってくれた人にもサインしますよ」と言った時の笑顔が素敵でした。



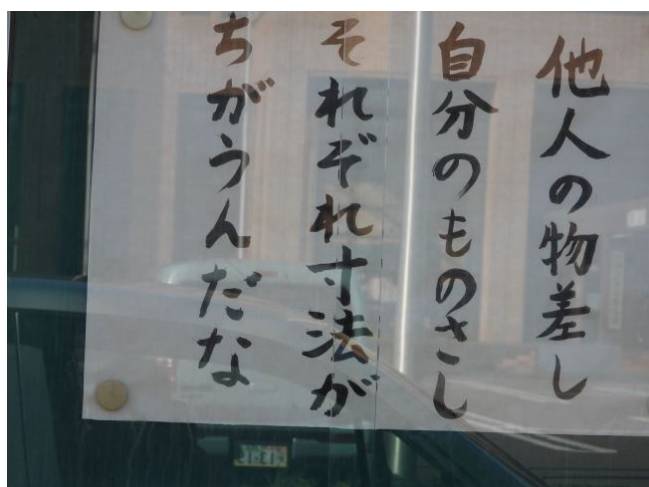
上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月25日(水)	7月2日(水)
上越消防署	0.050	0.057
上越南消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.053	0.040
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.050	0.053

柿崎区浄善寺の掲示板



柿崎区にある浄土真宗本願寺派寺院・浄善寺の掲示板です。

「あの人は〇〇だね」などと他人と比べて言うことがけっこうあります。でも人によって評価の基準、「モノサシ」は違って当然です。掲示板の言葉を見て、「確かに」と思いました。